アメニティデザイン企業

施工業者様用
お 施 主 様 用

施工説明書
取扱説明書

ダイケン階段部材

オプション品〈スタンダードタイプ〉

この冊子には、施工上重要な項目が記載されています。
施工の際にはよく読み、手順通りに正しく施工してください。
また、使用後は必ずお施主様にお渡しください。

⚠ 警告　施工説明書本文に出てくる重要警告事項の部分は、
施工前に注意深く読み、よく理解してください。

大建工業株式会社

スタンダード / M1

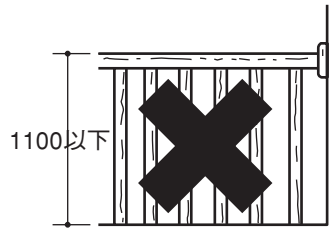
必ずお守りいただきたいこと

ダイケン階段部材オプション品＜スタンダードタイプ＞を長期間安全に使えるように施工するために、またトラブルのない確実な施工をしていただくために、以下の事を必ずお守りください。

⚠ 危 険

建築基準法から外れた施工をしないこと。

建築基準法から外れた施工をすると転落事故の発生する恐れがあります。



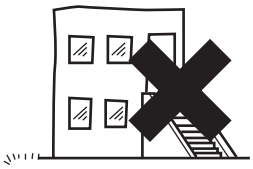
手摺子の間隔を広くしないこと。（手摺子内法110mm以下とすること）

手摺子のピッチが広いと転落事故の発生する恐れがあります。

⚠ 警 告

業務用途や屋外に施工しないでください。

本製品は一般家庭の屋内向けに設計されています。業務用途や屋外、浴室内等に使用すると製品強度が落ち、破損等によりケガをする恐れがあります。

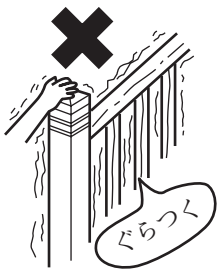


当製品は木製品ですので、ヒラタキクイムシ等の飛来、進入により虫害が発生する恐れがあります。虫害が進行しますと、製品強度の低下による脱落、ケガに繋がる恐れもありますので、虫害を発見された場合は、専門の業者に問合せ頂き、専門薬剤を注入する等の適切な処置を取ってくださるようお勧めいたします。

⚠ 注 意

手摺部材の取付けは、ぐらつきや、脱落のないようしっかり固定すること。

手摺部材がぐらついたり、脱落すると落下事故の発生する恐れがあります。



手摺の上に乗ったりブラさがったりしないこと。

手摺の破損、転落事故の発生する恐れがあります。

危険の定義とシンボルマーク

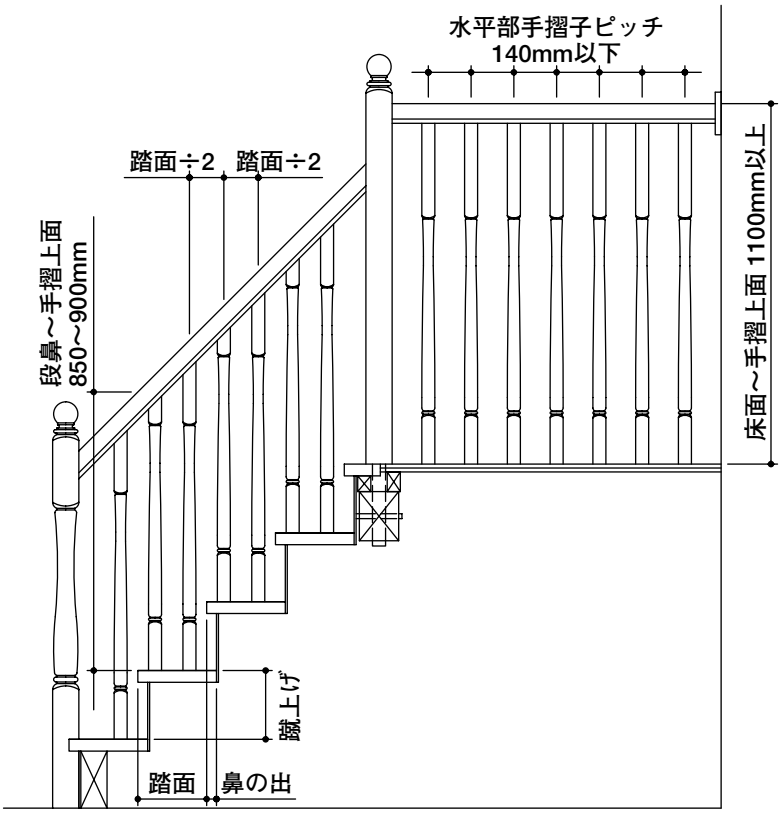
本施工説明書では【危険】【警告】【注意】を右のような定義で使用しています。

⚠ 危 険　取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。

⚠ 警 告　取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。

⚠ 注 意　取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

手摺の設置について



●下地部分に十分な強度があることを確認してから施工を行ってください

⚠ 警告　十分な下地強度がない場合、手摺が転倒し転落事故が発生する恐れがあります。

●手摺の片側の端部は、ロゼットを用いて壁に納めるようにしてください。

●手摺の高さは、右図のように
階段部：段鼻部より850～900mm
水平部：床面より1100mm以上
としてください。

●手摺子の設置間隔は
階段部：１段あたり２本（以上）
水平部：手摺子ピッチ140mm以下
（手摺子内寸110mm以下）
としてください。

⚠ 危険　手摺子のピッチが広いと転落事故の発生する恐れがあります。

施 工 の 前 に

●開梱頂いた際、製品に不具合がないか、部材モレがないかご確認ください。
（万一、不具合を見つけられた場合には、誠にご面倒ですが同一梱包でそのままご返却願います）

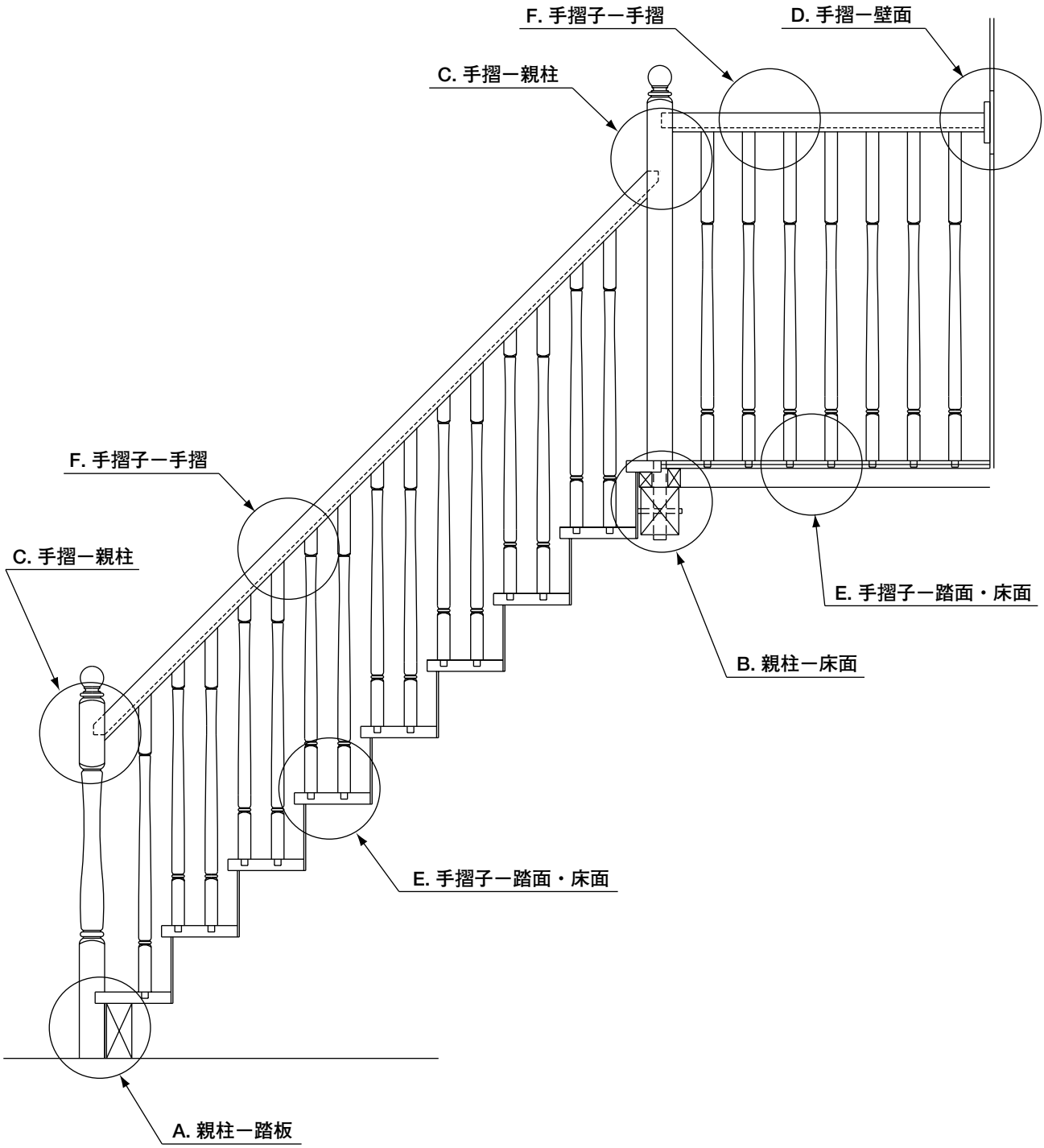
●本製品は天然木を使用しており、各部材毎に色柄が少しずつ異なります。施工前に仮並べをして色柄の調和を確認し、順番を決めてください。

●無塗装品を現場塗装する場合には、F☆☆☆☆対応塗料等、環境・健康に配慮した塗料をご使用ください。

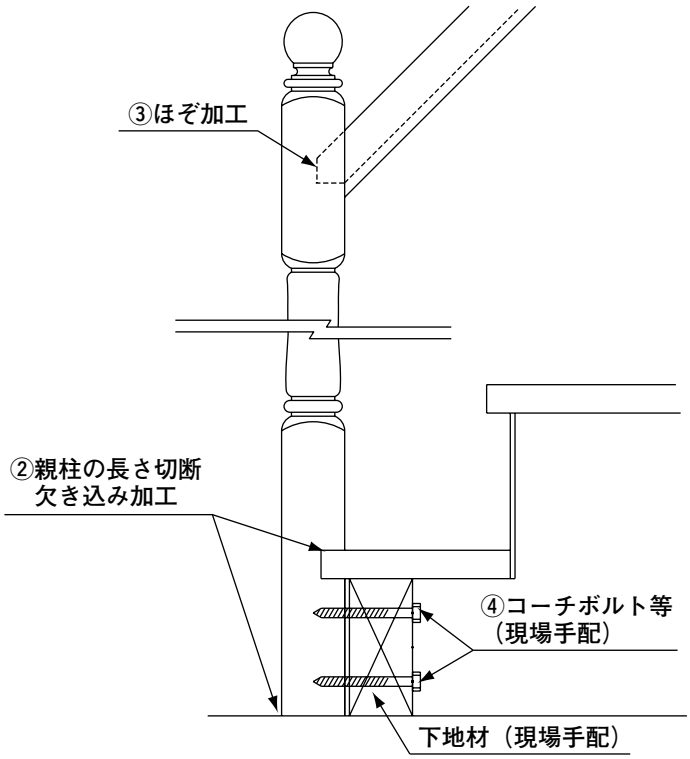
●施工の際には、一般的な大工道具以外に以下の様な工具等が必要となります。事前にご確認ください。

・φ21木工ドリル　（手摺子のほぞ穴加工に使用）
・ルーター・ノミ等（ほぞ穴加工に使用）
・コーチボルト　（親柱の固定に使用）
・L35タッカ　（手摺子固定に使用）
・隠し釘　（フィレット固定に使用）

施工方法


F. 手摺子ー手摺
D. 手摺ー壁面
C. 手摺ー親柱
F. 手摺子ー手摺
C. 手摺ー親柱
E. 手摺子ー踏面・床面
B. 親柱ー床面
E. 手摺子ー踏面・床面
A. 親柱ー踏板

A．親柱－踏板



①親柱の取り付け位置・長さを決定してください。

②親柱の長さ切断・欠き込み加工を行ってください。

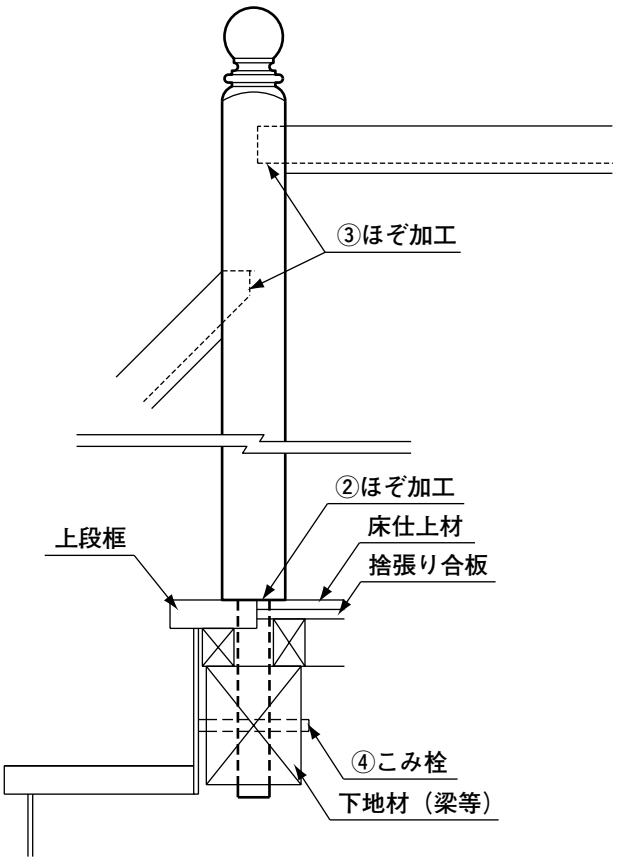
③手摺固定用のほぞ穴加工を行ってください。

④階段裏側よりコーチボルト等（現場手配）にて固定してください。
（階段裏側よりボルト固定ができない場合は、前側より固定し、木栓（現場手配）にて隠してください）

※親柱は、手摺との仮組みを行い、手摺子の寸法確認の後、固定してください。

⚠ 注意 ビス固定を行う際はザグリ穴・導き穴加工を必ず行い、ビス折れ・材割れがないようご注意ください。

B．親柱－床面



①親柱の取り付け位置・長さを決定してください。

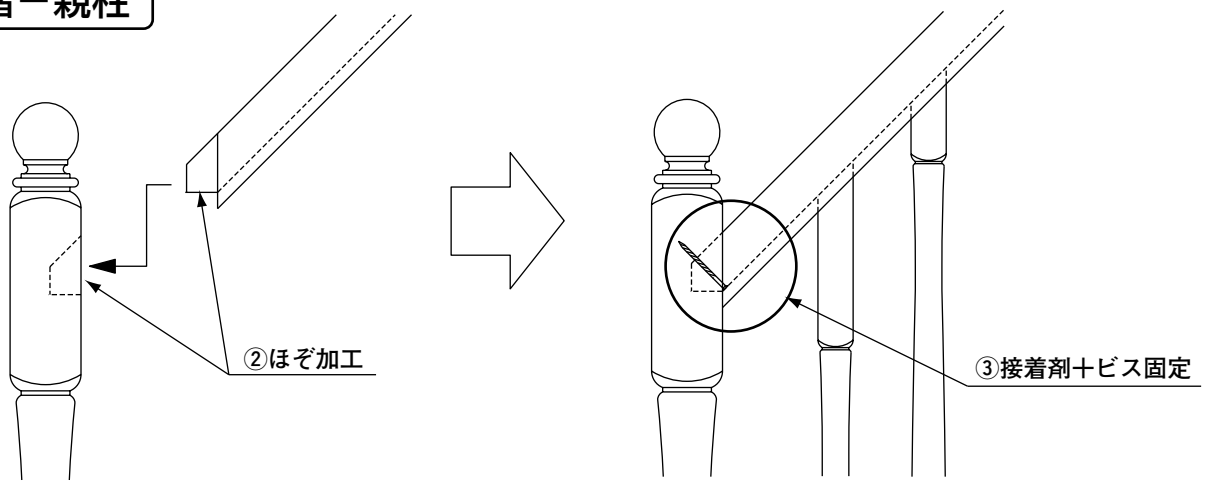
②親柱の下端部に、ほぞ加工・こみ栓加工を行ってください。

③手摺固定用のほぞ穴加工を行ってください。

④親柱を差込み、こみ栓にて固定してください。

※親柱は、手摺との仮組みを行い、手摺子の寸法確認の後、固定してください。

C．手摺ー親柱



①親柱位置・階段角度・ほぞ寸法を考慮して、手摺を切断してください。

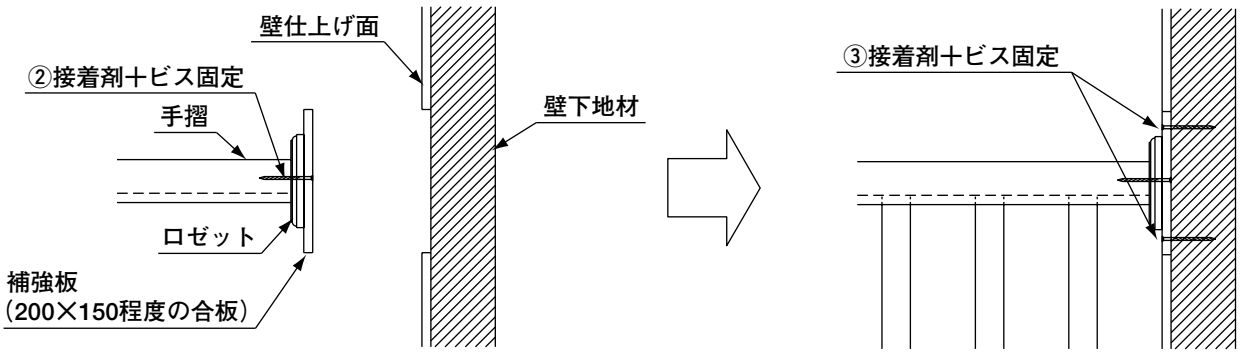
②手摺にほぞ加工を行ってください。
（親柱の加工は「A．親柱ー踏板」を参照ください）

③ほぞ加工部に接着剤（現場手配）を塗布して差し込んだ後、図のようにフィレット溝部よりビス固定してください。

※手摺は、親柱との仮組みを行い、手摺子の寸法確認の後、固定してください。

⚠ 注意　ビス固定を行う際はザグリ穴・導き穴加工を必ず行い、ビス折れ・材割れがないようご注意ください。

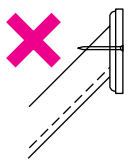
D．手摺ー壁面



①親柱位置・ロゼット厚等を考慮して、手摺を切断してください。

②手摺・ロゼット・補強板を接着剤＋ビスで固定してください。（補強板・接着剤・ビスは現場手配）

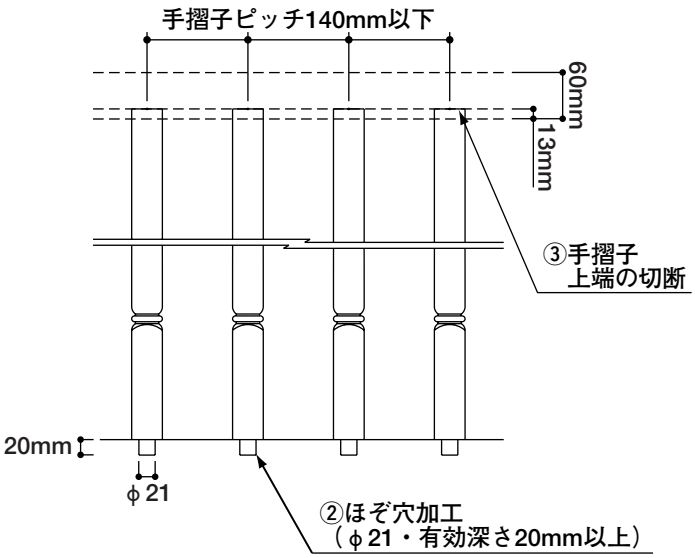
⚠ 注意　ビス固定の際に、ビスが手摺から飛び出さないよう注意ください。

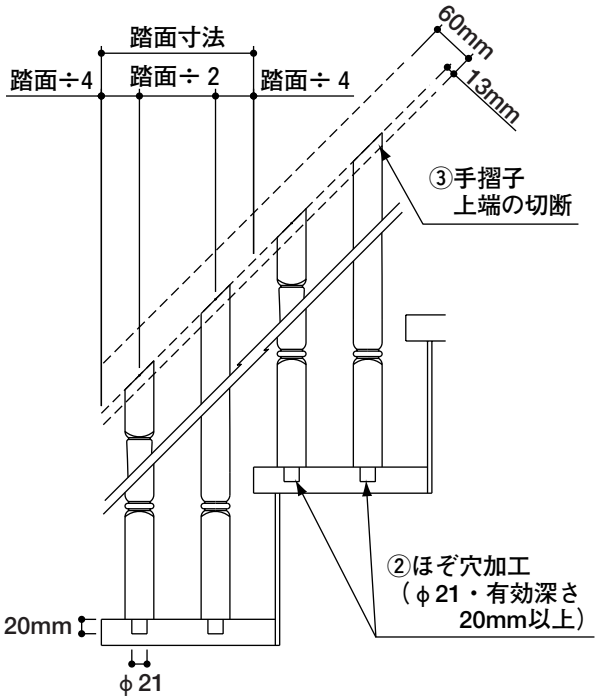


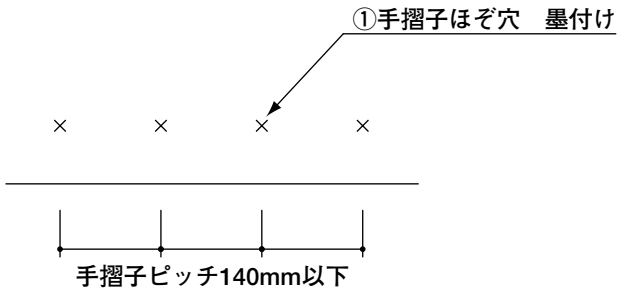
③補強板を壁下地材に接着剤＋ビスにて固定してください。（接着剤・ビスは現場手配）

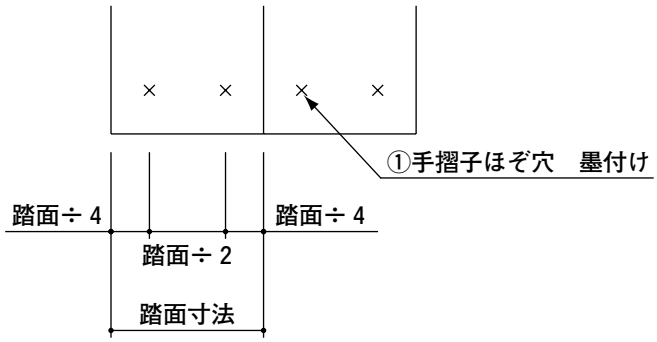
※手摺は、親柱との仮組みを行い、手摺子の寸法確認の後、固定してください。

E. 手摺子ー踏板・床面









①踏板・床面に手摺子の取り付け位置を墨付けしてください。

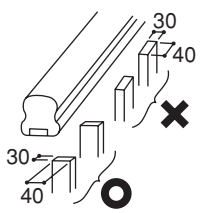
②踏板・床面に手摺子用のほぞ穴加工を行ってください。（φ21・有効深さ20mm以上）

③親柱・手摺を仮組みしてください。

④手摺の高さ・角度にあわせて、手摺子の上端を切断してください。（③で仮組みをした手摺と現物合せを行なうことをおすすめします）

⚠ 注意　手摺子はフィレット溝に飲み込まれますので、フィレット溝の飲み込み代（13mm深さ）を加味して切断ください。

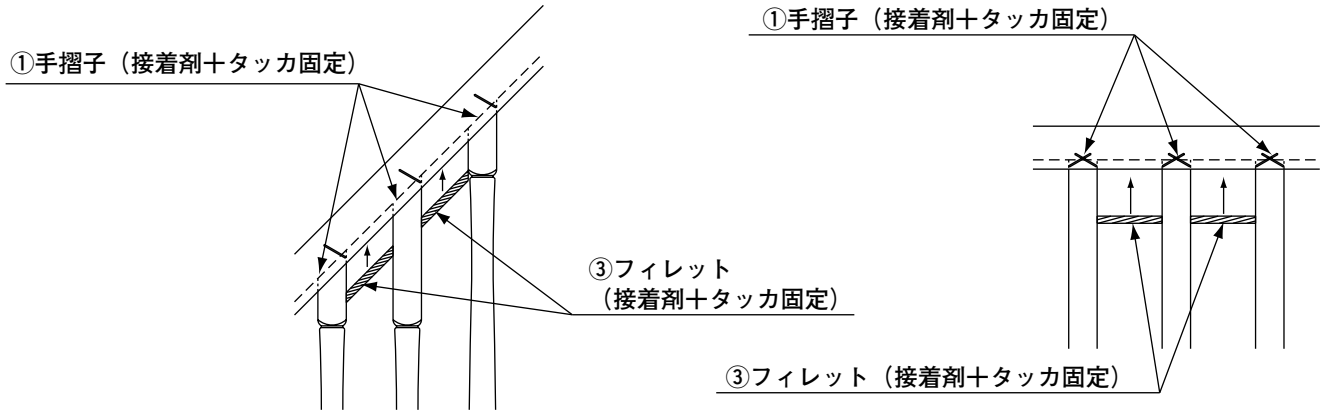
⚠ 注意　角タイプの手摺子は縦横長さが異なりますので、施工時は手摺子の向きにご注意ください。



⑤仮組みした手摺を取り外してください。

⑥ほぞ穴に接着剤（現場手配）を塗布し手摺子を差込み固定してください。

F．手摺子ー手摺



①手摺子の上部切断面に接着剤を塗布し、手摺フィレット溝に差込み、タッカ等を併用して固定してください。

②手摺同梱のフィレットを、手摺子の隙間にあわせて切断してください。

③切断したフィレットを、接着剤とタッカ等を併用して、手摺フィレット溝に固定してください。

施工後の確認

●施工完了後は、接着剤の硬化(夏期：約1日、冬期：約2日)を待って、ペンシルパテ（MT5620-■■）で補修ください。必ず、タッカ等の頭が飛び出していないか確認してください。

●手摺がぐらついたり、キシミ音がしないか確認してください。嵌合が緩かったり、金具固定が緩いとぐらついたりキシミ音が発生することがあります。この場合は、嵌合部や金具が確実に固定されているか、再度確認ください。

●施工完了後、引渡しまで手摺部材に傷がつかないように、養生シートで養生してください。その際、接着力の強いテープを使用すると塗装が剥がれることがありますので、テープを手摺部材に直接貼らないようにしてください。

取 扱 説 明 書

必ずお守りいただきたいこと

●故意にゆすったり、過度の衝撃を加えたりしないでください。固定部が緩み、破損・脱落を起こすことがあります。

●手摺に上がったり、ぶら下がったりしないでください。

●お手入れは、乾拭きまたは中性洗剤を薄めて、硬く絞って拭いてください。シンナー・ベンジンを使用すると表面の艶が変わったり、変色する場合がありますので、避けてください。

●ワックスがけはしないでください。
ワックスがけをすると、滑りやすくなりケガをする恐れがあります。

大建工業株式会社

DAIKENのホームページアドレス
http://www.daiken.jp/

製品のお問い合わせ・ご相談は 0120-787-505
※携帯・PHSからはTEL.06-6452-6000へ
受付時間:平日9:00～17:00（土・日・祝・年末年始・お盆は休み）